



高橋有子《げんきまもりまじペンク》2022

DOUBLE ANNUAL 2023

又 微心 熱

これから
を生きる
ちから

SLIGHTLY FEVERISH:
HEAT OF REACTION,
STRENGTH FOR NEW LIFE



中川桃子《LOVE patrol》2022 | 部分 | 撮影: 顧剣亨

出展作家

Giannis Aristotelous
rajiogoo
tag

井本駿
鈴木藤成
添田賢刀
高橋侑子
趙彤陽
中川桃子
服部亜美
出会、プラス
アーティスト・キュレーター
奥田知叡
郭禹鎔
千田真尋

総合ディレクター
片岡真美
ディレクター
金澤韻
服部浩之

2023年2月25日^土
——3月5日^日

10:00-18:00 | 入場無料 | 休館日: 2月28日^火
※観覧締切時間は17:30

国立新美術館
3階 展示室3A

趙彤陽《ACCOMPLICE》2022



主催: 京都芸術大学
協力: 東北芸術工科大学



協賛: 株式会社きんでん、セコム株式会社、日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社、
富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社、株式会社毎日映像音響システム

きんでん SECOM NISSHA FUJIFILM AWA 毎日映像音響システム

DOUBLE ANNUAL 2023

又

微熱

熱

これから
を生きる
ちから

SLIGHTLY FEVERISH:
HEAT OF REACTION,
STRENGTH FOR NEW LIFE

2023年2月25日^土
——3月5日^日

休館日:2月28日^火

10:00-18:00 | 入場無料
※観覧締切時間は17:30

国立新美術館
3階 展示室3A

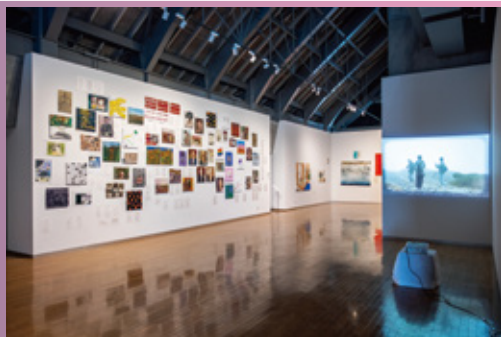
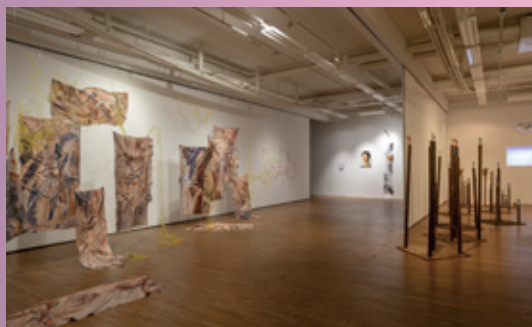
本展は京都芸術大学と東北芸術工科大学の学内選抜展です。まず、展示プラン募集にあたり、「抗体・アジュール・ミラクル」というキーワードを設定しました。「抗体」は病原体などが体内に入ったとき、それに対抗するために体の中で作られる物質であり、免疫のもとになるもの。「アジュール」は世俗的な権力が及ばない「避難所」。それぞれ、みずからが受ける周囲からの影響・刺激・働きかけにに対応する、態度や対処法についてのタームです。また、解決方法がアートの実践として示されることを期待し、「ミラクル」という言葉を提起しました。

私たちの生活の様相を一変させたパンデミックが、3年たった今も継続する中、学生のみなさんから寄せられた展示プランは、その多くが丁寧な思考を経たものでした。一般に若者の特権ともいわれる感情のほとばしりや自由奔放さは、今回は影をひそめ、それぞれの置かれた場所のこと、心を動かされるもの、違和感や社会的課題に対して、注意深く真摯に向き合う姿勢が浮かび上がっています。

「反応熱」は、化学反応において発生する熱のことを指します。本展では11組の学生が、みずからをとりまく世界から受けたさまざまなものに反応し、それぞれの暫定的な解をアート作品として提示します。その微かながら、たしかにとる熱に、彼らの状況を捉える感性と、これからを生きるつよさが表れています。

DOUBLE ANNUAL PREVIEW展 京都会場
2022 | キヤムリ・オーナ | 撮影: 順頌亭

DOUBLE ANNUAL PREVIEW展 山形会場
2022 | THE TOP | 撮影: 岡崎裕



TALK EVENT 時代精神と若い世代の表現

2月25日^土 15:00-16:00

登壇: 吉川左紀子 | 京都芸術大学学長

三瀬夏之介 | アーティスト、東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科長

片岡真実、金澤韻、服部浩之

会場: 国立新美術館 3F 講堂

定員: 100名 (予約優先) 料金: 無料

ご予約はこちらから [>](#)



「DOUBLE ANNUAL」は京都芸術大学ならびに東北芸術工科大学の全学部生と院生を対象とした学生選抜展です。京都芸術大学は2017年度より、学生選抜展に第一線で活躍するキュレーターを招聘し、キュレーターの提示したテーマにตอบสนองする形で、キュレーターから制作指導を受けながら展覧会をつくり上げる実践的な芸術教育プログラムに挑戦してきました。6年目を迎える今回は、姉妹校である東北芸術工科大学からも学生選抜を行うプロジェクトへと発展させ、京都と山形という二つの異なる地点から、芸術教育のあり方を問い直し「アートにながでできるのか」問いかけます。

DIRECTORS



写真: 伊藤彩妃

総合ディレクター
片岡真実

森美術館館長、京都芸術大学大学院客員教授。2017-2019年度KUA ANNUALディレクター。芸術監督として、第9回光州ビエンナーレ(2012、共同監督)、第21回シドニー・ビエンナーレ(2018)、国際芸術祭「あいち2022」なども兼務。



ディレクター
金澤韻

京都芸術大学客員教授、現代美術キュレーター。公立美術館勤務後、2013年よりインディペンデント・キュレーターとして活動。メディアアート、漫画、地域とアート、障害とアートなど既存の美術の枠を超える領域を扱う。株式会社コダマシーン共同代表。現代美術オンラインイベントJP共同主宰。2016年より上海拠点。



ディレクター
服部浩之

キュレーター。東北芸術工科大学客員教授、東京芸術大学大学院映像研究科准教授。2020年度・2021年度KUA ANNUALディレクター。アジア各地で新しく生まれる表現活動を調査研究するなかで、異なる領域の応答関係に関心をもち、様々な表現者との協働を軸にしたプロジェクトを展開する。近年の企画に、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Cosmo-Eggs」宇宙の卵(2019)がある。

お問い合わせ先
京都芸術大学 教学事務室
075-791-9122 (代)
d-annual@office.kyoto-art.ac.jp

国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

TEL: 03 6812 9921 (会期中のみ)

東京メトロ千代田線乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分
※美術館には駐車場はございません。

DOUBLE ANNUAL ランディングページ



<https://www.kyoto-art.ac.jp/doubleannual2023/>

